



パワー浜松ロータリークラブ週報

クラブテーマ: 全員参加で繋がりをより深めあおう

パワー浜松ロータリークラブ (2015-16年度 会長: 知久 武 幹事: 鈴木 尚孝)
〒430-7733 浜松市中区板屋町 111-2 オークラクトシティホテル浜松 4307 号室
Tel: 053-452-0800 Email: info@power-hamamatsurc.jp
http://www.power-hamamatsurc.jp

創立: 2002年10月22日 認証伝達式: 2003年4月29日 スポンサークラブ: 浜松中RC

第623回例会 4月19日 AM7:30~8:30

オークラクトシティホテル浜松3Fチェルシーの間

- 司会: 堀内善弘 山下俊彦
- 点鐘: 知久武
- 議事: 職業奉仕PJ「繊維産業に携わるPRC会員」

〈出席報告〉

会員数 78名
出席数 64名 出席率 82.05%
前々回出席率 89.74%

■会長挨拶: 知久武会長

会長挨拶の前に、九州の震災にて犠牲になられた方々に哀悼の意を込めて黙禱致しました。会長幹事会の報告を致します。会員増強の方は、第七分区全体で2名のマイナスだそうです。浜松ロータリークラブが増強3名で一番多く、他のクラブは1名のプラスか1名のマイナスということです。後、引き続きカードの入会もお願い致します。マイロータリーに登録をしている方は5名ぐらいですね。ほとんどのクラブは100%に近いので、情報を出しますので登録をお願いします。浜松青年会議所の方から「池上彰さんの講演があるので宜しければご参加ください。」と連絡がありました。もう一つ、会員増強に合わせて西ロータリーの滝本会員の卓話が、増強の意味を聞くのに大変有効的なので例会で卓話としてご活用して頂けると大変うれしいとお話がありました。以上会長幹事会のご報告をさせて頂きました。

■幹事報告: 鈴木孝尚幹事

先ほど、知久会長からもお話がありましたがマイロータリーに関しましてはPR不足ですみませんでした。ロータリーカードに関しましては第7分区の加入が多いと思いますがご加入頂ければありがたいです。先ほど、地震についてお話がありましたが、沢山の方が被災されました。被災された方に心よりお見舞い申し上げます。多くの地域で避難生活をされている方がいて、そこで復興の為に我々パワー浜松ロータリークラブとしても皆様に義援金の協力をお願いできればと思います。既に義援金や支援物資等をされていると思いますが、可能な限りで構いませんので募金箱を回しますのでご協力ください。

■委員会報告

■米山記念奨学委員会: 小澤邦比呂会員

4月17日に長泉の米山梅吉記念館にて次年度の新米山奨学生カウンセラーオリエンテーションが開催されました。山梨静岡地区で20名の米山奨学生を受け入れる事になっております。当クラブでは、残念ながら受け入れはございませんが、米山記念事業にご理解とご協力をお願い致します。

■スマイル

船山靖之会員: 4月16日に待望の第2子が誕生いたしました。少子化問題・年金問題に歯止めをかけるべく今後も「産めよ増やせよ」の精神で頑張りたいと思います。

■ハッピーバースデー

4/2 池田龍郎会員 4/3 広瀬隼人会員 4/8 石原誠会員
4/12 田淵邦彦会員 4/13 竹林計会員 4/15 土屋公良会員
4/29 鈴木直幸会員



■議事：「繊維産業にかかわる PRC 会員」

卓話者：鈴木一広会員・伊藤勝人会員

長谷川隆是会員：職業奉仕プロジェクトの担当例会です。

以前、私が繊維の仕事をしているということで繊維のお話をさせて頂きました。当クラブには、繊維関係のお仕事をしてられる方が、私以外にもいらっしゃいます。製造工程に携わっている「鈴木一広会員」と販売の部分に携わっている「伊藤勝人会員」の御二方に職業的な観点を含めてお話しいただきます。



鈴木一広会員：入会して9年目で、初めての卓話となります。繊維の歴史、平安時代迄遡り、三ヶ日町の初生衣神社（うぶぎぬじんじゃ）が、伊勢神宮へ神衣（かんみそ）と言う衣をおさめていた。1845年（弘化2年頃）井上正春が浜松城主となり広く綿織物を推奨し盛んになっていきます。明治時代に入り小山みいさんという女性が「永隆社」という織物協同組合を作り遠州繊維産業の基礎を作りました。昭和5年には、昭和天皇が日本形線をご巡覧されました。昭和8年には、日本の綿布の輸出量が世界第一位となります。今では、繊維生産業の有った所も他の業種に変わってしまいました。戦争が始まり、それまで織物機会を生産していた工場が工作機械（軍需産業）へ変わり、終戦後にオートバイ・自動車の生産へと変わりました。日本の産業にはよかったのかもしれませんが、浜松の繊維産業としては、大きな変換期となります。1987年には、輸出と輸入が逆転し輸入が輸出を上回ってしまいます。浜松の繊維産業は伝統工芸を守っているところが数社あります。厳しい業界ですが、新しいことを取り入れ伸ばしていきたいと思ひます。



伊藤勝人会員：長谷川さんや鈴木一広さんの様に遠州で繊維関係を盛り上げている会社ではなく、着物の世界です。長谷川さんの会社には、私が在社中にも大変お世話になりました。呉服の業界は、右肩下がりで、昔は、一町村一店舗方式だったのですが今では、浜松市も磐田市も西部地区全体に呉服屋さんは無くなってしまいました。まして、専門店などはほとんどなくなりました。着物が減っている中で、全国の着物産地を回りまして、まだまだ皆さんに本当に技術のしっかりしている物があるということ

伝えたいと思ひます。沖縄や京都など大変素晴らしい生産者がおります。その方たちの懸念は、後継者がいないということ。伝統国芸や国宝の人たちをもっといろいろな方たちに知ってもらいたい、知ってもらう様に発信していきたいと思ひます。

